

# 「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部  
創立10周年に寄せて

100

私は、地元川越の蓮馨寺で「みずゞ塾」という朗読教室をやっている。このリレーエッセイの九十回目に登場した村田邦子さんは、その元塾生だ。そんな縁で昨年、陸前高田のふれあいセンターで開かれた詩で生涯を綴る「金子みずゞ物語」の朗読会に呼んでいただいた。

びくびくした。急遽決まった朗読会にもかかわらず、彼女は一週間足らずで三百二十名の観客を集めてしまった。しかも村田さんは、陸前高田を終の棲家として移り住んでまだ一年だ。余所者の彼女を受け入れ、わずかの間にこんなにも溶け込ませて下さった地域の

方々の人情に、目頭が熱くなった。その朗読会をきっかけに昨秋、村田さんは「みずゞ塾」をオープン。「みずゞ塾」分校の誕生だ。どんなに嬉しかったことか！さらにこの四月には、亭と地域の皆さんが軸となって、金子みずゞの生涯を描いた一人芝居「空のかあさま」を呼んで下さった。満席だった。

た。担当されている方が、お芝居を観て下さっていたのだ。お引き受けしたはいいが、さて困った……。これまでエッセイを読ませていただいたのだが、五葉山に寄せる皆さんの溢れる思いが綴られてい

る。五葉山をよく知りも

に好き。ただその一念で再び芸道の山を登り始めて今に至っている。

芸能界とは距離を置き、自分なりの表現活動を模索の日々。喰えない芝居を続ける道は険しい。お金にならないのだから、好きな事以外はやりたくない。妥協できない。私は一生、愚直な馬鹿のままにかまわないと

あこの町で六百席の市民会館ホールを埋めるのに、どれほどの尽力をいただいたことだろう。私は感謝を深く胸に刻んだ。縁とは不思議なものだ。縁とは不思議なものだ。縁とは不思議なものだ。縁とは不思議なものだ。

で、そのお芝居をきっかけに、リレーエッセイのボタンが私に回ってきた。

しなない私のような者が、いい加減なことを書くわけにはいかない。

そこで私は、自分が登っている最中の芸道の山について書いてみようと思う。十七歳で映画デビューして、はや幾年。欲望渦巻く芸能界にポロポロになり、一度下山。こんなことがやりたくて芝居を始めたんじゃない。でも私は山が好き。本当

でも私は山が好き。本当

でも私は山が好き。本当

でも私は山が好き。本当

## 「遙かなる山」

埼玉県川越市 谷 英美

【執筆者のプロフィール】一九六五年生まれ。の故郷

の故郷



でも私は山が好き。本当

でも私は山が好き。本当

でも私は山が好き。本当

でも私は山が好き。本当

でも私は山が好き。本当

